

移住者インタビュー①

いちご農家 小森俊一さん

脱サラ後、いちご農家に。

小森さんの一日はビニールハウス内での仕事からはじまる。朝4時半に起床して軽トラに乗り、朝食をはさんで9時30分頃まで収穫、手入れしてから朝ご飯を食べ、その後はいちごのバック詰め作業。自宅の横に直売所をつくり、そこで販売している。近隣の方も多く買いにくるそうだ。

「今は完全に農業中心の生活で、作業後はどっと疲れますが、以前のサラリーマンとして働いていたときに比べると精神的に充実していますね」と小森さんは語る。

転職となったのは就職情報誌で農業特集。東北大学生の頃に環境問題を学んだこともあり、興味をもった。



大賛成した奥さんの後押しもあり、愛知県でのサラリーマン生活を辞めて、いちご栽培をする農業法人に就職し、農業の知識と技術を習得した。

山が見える景色で過ごせる贅沢。

中学生と小学生のお子さんがふたり。子育ての環境としては良いロケーションで、特に栗駒山の景色などが近いことを気に入っている。そして田舎のわりに高速道路のインターや新幹線のくりこま高原駅、国道4号などが近く、交通の便が良いことも気に入っているポイントという。

最後の今後やってみみたいことをお聞きすると、長くお客さんに評価されるよう質・量ともに腕を上げ続けたいのだからか。

移住者インタビュー②

酪農家 野村泰仁さん

登米市からの大移動。

平成26年7月に栗原市築館のJA栗っこ畜産センターで、日頃の飼養管理の成果が競い合われる第9回栗原市畜産共進会が開催され、その乳用牛部門で名誉賞、ベストアダ賞（優れた乳房を持つ牛に与えられる賞）ともに受賞されたのが、花山の野村泰仁さんだ。

野村さんの生まれは登米市。同市の東和町錦織の道路バイパス工事による立ち退きがあり、酪農の仕事を続ける場所を探した。

条件のあう場所が花山にあったため、移住を決めたという。両親と奥さん、お子さんふたり、そして乳牛50頭といっしょに花山へ引越してきた。



同業者の助け合いコミュニティ。

冬の雪の多さに驚いたものの、栗原への移住はおおむね正解だったと語る。「酪農を営むにはすごく最適な場所でした。周辺の方も同じく酪農を営んでいるため、困ったときに助けてくれるし、助けるための酪農技術を持ち合わせた方たちばかりでした。さらに周りの住人の方がとても親切にしてくれるので、環境としては安住の地ですね」とこ満悦の様子。

近隣の方たち酪農家コミュニティの寄り合いが月に何度かあり、近所づきあいだけでなく、酪農のスキル交換にもなること語ってくれた。

